

# 児童期までの生活技能の習得に関する調査研究（その1）

古谷 吉男 宮本 麻由\* 宮本 隆\*\*

川尻 啓治\*\*\* 森下 浩史

(2007年10月31日受理)

## A Study of Life Skills Acquisition by School-age Children

Yoshio Furuya, Mayu Miyamoto, Takashi Miyamoto,  
Keiji Kawajiri and Hirofumi Morishita

### 1. はじめに

経済的な豊かさに伴う価値の多様化と、一方で、その画一化、流動化が増す中で、私たちの生活様式も変化を強いられて来た。加えて、少子化や核家族化、都市化などの進展により、子どもたちの生活環境、学習環境も様変わりして来ており、この間、子どもたちの自然や技能の体験不足が指摘されて久しい。発達期において、体験を通して「できるようになった」の成就感は、子どもの自律性を育み、自尊感情の高揚を促すとともに、さらなる挑戦心を喚起する。中でも、日常生活に関わる基本的な諸技能（以下、生活技能）の習得は、彼らの自律を促すとともに、生活面での精神的な安定をもたらし、修学態度の向上や学習内容の発展を図るうえで欠かせない。

これまでに、学力・体力及び生活習慣などの調査は、文部科学省により定期的に行われているが、生活に関わる諸技能の習得状況についての系統的な調査は少ない<sup>1)</sup>。

本研究では、学校教育実践上の参考資料とするために、小学校6年生を対象に、児童期における日常生活に関わる基本的な諸技能の習得状況を調査し、子どもの現状把握を試みた。

### 2. 調査の概要

#### 2.1 基本的な生活技能の項目と設問

日常生活に関わる基本的技能の選定範囲は、家庭内で遭遇する衣食住に関わる基本的なこと、簡単な工作や家庭菜園に関すること、小学校教科書に記述されている技能に関することを中心にした。それらを、便宜上、以下に示す5分野に分類し、その他として、テレビゲームの頻度、外遊び、スポーツクラブへの加入、好きな教科・得意な教科を加えた。

設問用紙には分野名は示さず、技能項目ごとに、習得状況（よくできる、まあまあできる、あまりできない、したことがない）、習得時期（入学前と各学年）、および、教わった人（父、母、教師、祖父母（親戚）、友人、自分自身等）について、これまでの自己の生活を振り返り

---

長崎大学教育学部 \*北九州市立門司海青小学校(教諭) \*\*長崎大学教育学研究科(院生)

\*\*\*学校法人青雲学園(講師:元長崎市立茂木中学校長,長崎県中学校技術・家庭科教育研究会長)

ながらの回答ができるよう工夫し、アンケート方式の選択肢と一部記述の30題を設けた。

<生活一般分野>

リボン結び、箸の持ち方、鉛筆の持ち方、マッチで火をつける、火の調節・管理、家電製品（アイロン、炊飯器、掃除機、電子レンジ、洗濯機）の使用

<調理・裁縫の分野>

生卵割り、包丁を使う（りんごの皮むき、トマト・玉ねぎのみじん切り・ねぎの小口切り）、ご飯を炊く（炊飯器）、一人での料理体験、魚をさばく、布の手縫い、玉結び・玉止め、ミシンでの直線縫い、ボタンの縫いつけ

<掃除・整理整頓の分野>

雑巾（タオル）を絞る、机の中や上の整理整頓、自分から掃除をする、荷造りをする、靴を自分で洗う、プリントをノートにきれいに貼る

<工作の分野>

カッターを使う、鉛筆をナイフで削る、プラスチックモデルの製作、はさみを使う、のこぎりで木材を切る、かなづちで釘を打つ、ドライバーを使う、ペンチを使う、昔遊びのおもちゃづくり

<栽培の分野>

鉢の植え替え、一人での栽培経験、学校以外での栽培経験、土の耕し

<その他>

テレビゲームの頻度、好きな外遊び、スポーツクラブへの加入、好きな教科・得意な教科

## 2.2 調査時期、調査依頼校および対象児童

調査は、小学校6年生を対象に、平成18年11月下旬から12月中旬にかけて実施した。調査依頼校は、長崎市内及びその近郊の小学校7校（841名）、雲仙・島原地区の小学校7校（258名）、北九州市の小学校1校（168名）で、回答を得た児童の総数は1267名（男子674名、女子593名）である。

## 2.3 調査方法

上記の依頼校に調査用紙（B5版8P）を持込み（一部郵送）、調査と返送を各校の校長（北九州市を除く）に依頼した。回答に要する時間は予備調査で20～30分程度を見込んでおり、家庭に持ち帰っての回答も想定していたが、殆どの依頼校では回収の便宜から校内で実施され、その結果、回収率は100%に達した。

なお、対象学年を6学年とした理由として、教育的配慮も含め、以下の2点を強調したい。

- ・小学校の最高学年であり、幼児期及び児童期の体験をもとにした回答が得られる。
- ・中学校への進学を目前とし、自己の今、現在の技能の習得状況の確認と自覚を促す。

## 2.4 集計方法

集計は、市販の表集計計算ソフトを用い、まず、依頼校、および、各技能項目に対応する選択肢ごとの集計を行い、その項目全体に占める割合（%）を求め、次いで、全依頼校に対する各技能項目、選択肢ごとの全体集計を行い、技能項目ごとに全回答数に占める割合（%）を求めた。記述式回答については、記述事項を分類整理し、計数後、全体に占める割合を求めた。さらに、地域差、性差についての集計も試みた。

### 3. 調査結果

#### 3.1 生活技能の習得状況について

今回、回答を得た全児童の分野ごとの技能習得状況を図1 (a), (b), (c), (d), および, (e) に示す。これらの結果をもとに、技能習得状況を要約すると以下のようになる。

- 自己の技能に自信のある児童は少ないが、ある程度の技能をこなすことは可能である。児童が特に自信のない技能は、包丁やカッターを使っての作業ということが分かる。
- 栽培分野の鉢の植え替えは低学年の生活科の授業で行っているはずだが、記憶に残っていない児童が多く見られる。
- 「したことがない」が半数を超える項目はないが、未体験割合が1割を超える項目は以下の通りである。

鉛筆を削る (33%), 説明書を見ながらのプラスチックモデル製作 (28%), りんごの皮むき (27%), 火の調節 (16%), 鉢の植え替え (13%), 一人での料理体験 (13%), ご飯を炊飯器で炊く (11%), 土の耕し (10%)

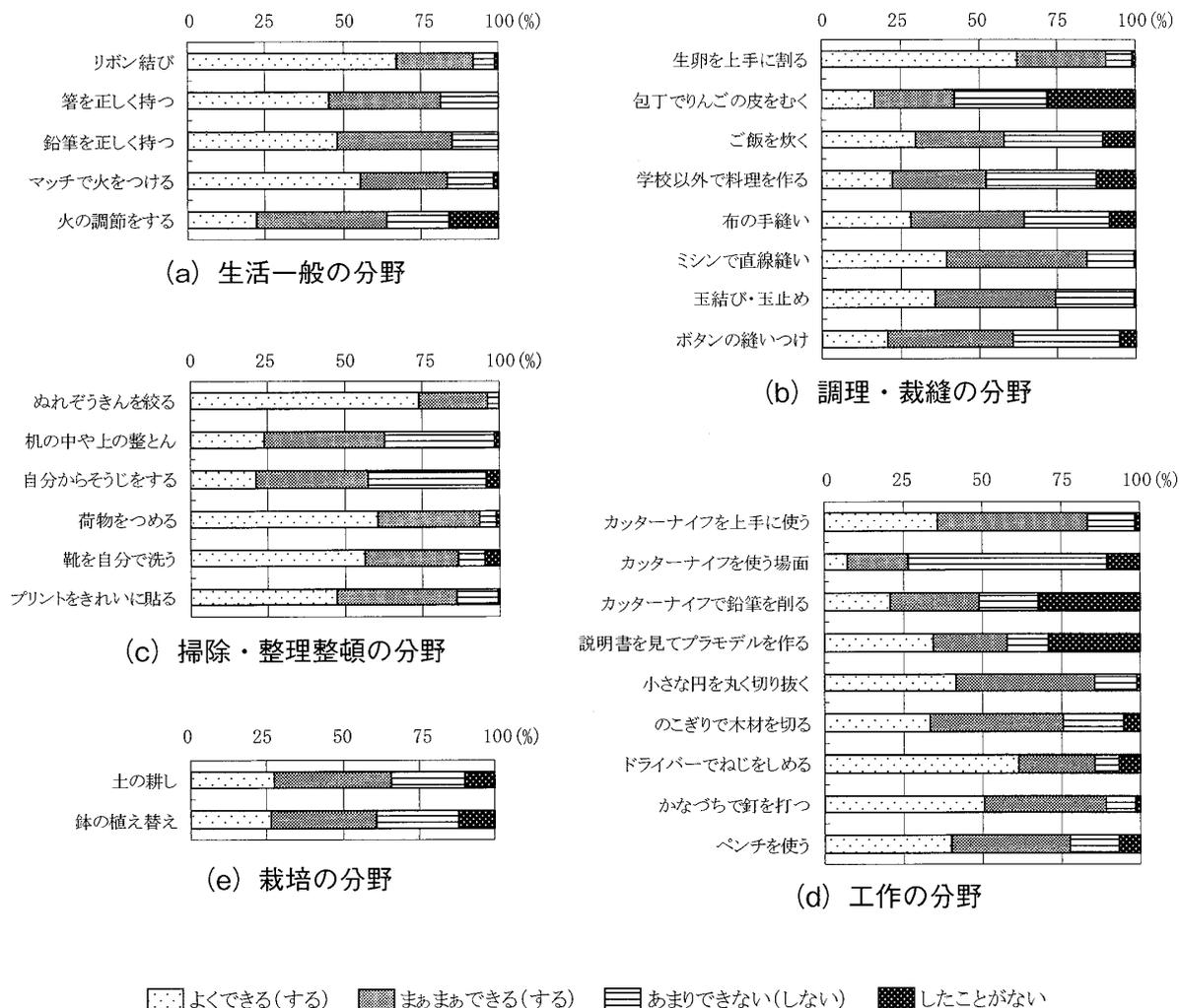


図1 全児童の分野ごとの技能習得状況の集計結果

回答を得た技能のうち、習得割合人数の高い生活技能を表1および表2に示す。表1から分かるように、「よくできる」の回答が5割を超えた技能項目は僅か6項目に限られた。

表1 「よくできる」が半数を超える技能

順位	技能	割合
1	雑巾を絞る	74%
2	リボン結びをする	68%
3	卵を上手に割る	62%
4	ドライバーでねじをしめる 荷物をつめる	61%
5	マッチで火をつける	55%
6	かなづちで釘を打つ	51%

表2 「よくできる」「まあまあできる」の合計が8割を超える技能

順位	技能	割合
1	雑巾を絞る	96%
2	荷物を上手につめる	94%
3	リボン結びをする	93%
4	卵を上手に割る	91%
5	靴を自分で洗う ノートにプリントをきれいに貼る 小さな円をはさみで切り抜く	86%
6	鉛筆を正しく持つ ミシンで直線縫いをする ドライバーでねじをしめる	85%
7	マッチで火をつける	84%
8	カッターを上手に使う	83%
9	箸を正しく持つ	82%

### 3.2 生活技能の体験時期について

今回の調査では、児童の記憶をもとにはあるが、いつ頃（入学前、学年）その技能を初めて体験したかを尋ねた。その全回答に対する集計結果を図2 (a) および (b) に示す。本図より、ここに掲げる技能には、5年生までに殆どの児童が触れていることが分かる。

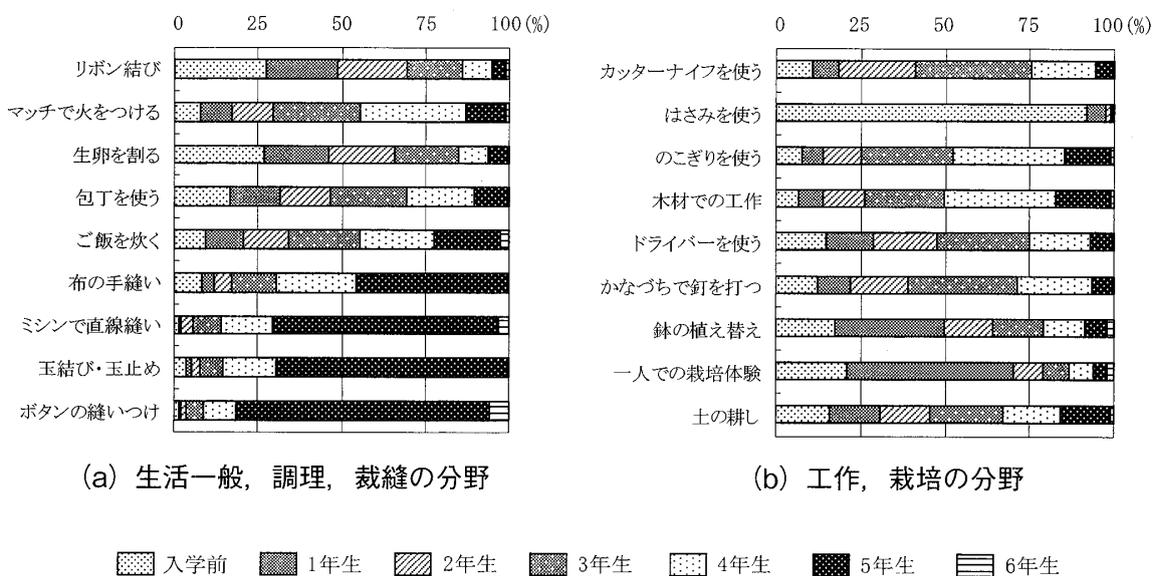


図2 初めて体験した時期

技能を体験する時期に関して、必ずしも習得はしていないが、8割を超える児童が遭遇した時期とその技能項目を表3に示す。表に掲げる技能のうち、男女それぞれにおいて、その体験が8割に到達する学年を比較すると、一人での栽培経験（男子：3年生，女子：2年生），包丁の使始め（男子：4年生，女子：3年生），米を磨いで炊飯器で炊く（男子：5年生，女子：4年生），リボン結び（男子：4年生，女子：3年生）等は、いずれも、女子児童の体験学年が1学年程度早く、男女差のある傾向が見られた。

表3 8割を超える児童が体験する時期とその技能項目

時期	8割を超える児童が体験している技能項目
入学前	はさみを使う
3年生	リボン結び，生卵を割る，一人での栽培
4年生	マッチで火をつける，包丁を使う，カッターナイフを使う，のこぎりを使う，木材での工作，かなづちを使う，ドライバーでねじをしめる，鉢の植え替え，土の耕し
5年生	ご飯を炊く，布の手縫い，ミシンで直線縫い，玉結び・玉止め，ボタンの縫いつけ

### 3.3 教わった人について

児童が諸種の生活技能に触れ、その習得を試みる時、教わったと感じている人物とその技能項目について集計した。自分自身を含め、多くの児童が1位に挙げた人物の技能項目数の上位3名を表4に示す。学校の教師の寄与は7項目にも及び、特に裁縫分野で高い。また、簡単な工具類の使用については自己努力していることが伺える。なお、父親の寄与については、工作の分野で上位を占める傾向がみられた。

表4 教わった人（自分自身を含む）

順位	人物	1位の技能項目
1	先生	布の手縫い（47%），ミシンで直線縫い（65%），ボタンの縫いつけ（68%），玉結び・玉止め（70%），のこぎりを使う（35%），鉢の植え替え（37%），土の耕し（30%）
2	自分	雑巾絞り（68%），はさみを使う（65%），ドライバーを使う（45%），マッチを使う（32%），かなづちを使う（34%），カッターを使う（37%）
3	母	包丁を使う（70%），リボン結び（60%），生卵を割る（58%），学校以外での栽培（34%）

### 3.4 好きな教科・得意な教科について

児童の技能習得に関わり、今後、小学校の教科学習での実践の在り方について検討するために、児童の小学校の各教科に対して抱いている意識を調べた。好きな教科と得意な教科を、それぞれ、3教科ずつ選択させた男女別の集計結果を図3（a）および（b）にそれぞれ示す。また、男女を合計した全体の結果を図3（c）に示す。なお、これらの図の縦軸は回答した延べ児童数である。表5はその児童数に応じて順位付けした結果である。これらによると、好き・得意ともに体育が男女全体では1位であるが、女子児童では音楽が1位を示した。また、男子では図工や理科，女子では家庭科や図工などの実習や実験を伴う教科への関心が高いことが分かる。さらに、好きな教科と得意な教科とは必ずしも対応しておらず、全体では国語や英語，男子では家庭科，女子では理科に対してやや苦手意識

が認められた。

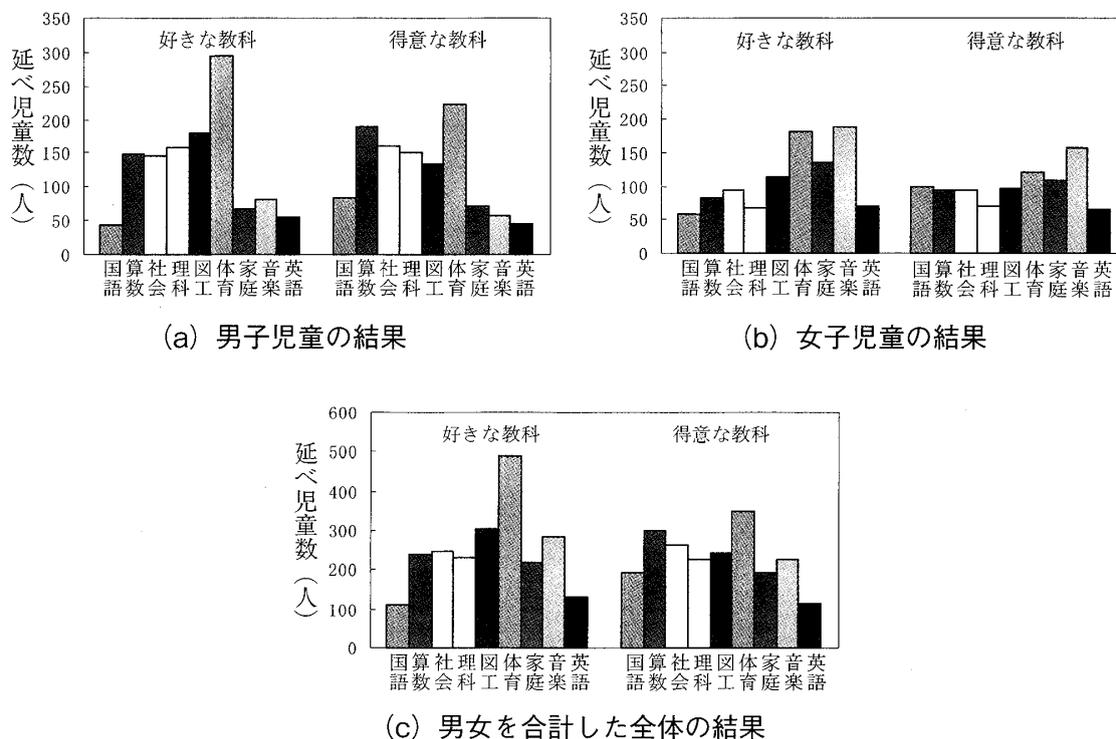


図3 好きな教科、得意な教科の集計結果 (3教科選択)

表5 好きな教科と得意な教科の順位 (3教科選択)

順位	全 体		男 子		女 子	
	好き	得意	好き	得意	好き	得意
1	体育	体育	体育	体育	音楽	音楽
2	図工	算数	図工	算数	体育	体育
3	音楽	社会	理科	社会	家庭科	家庭科
4	社会	図工	算数	理科	図工	国語
5	算数	理科	社会	図工	社会	図工
6	理科	音楽	音楽	国語	算数	算数
7	家庭科	国語	家庭科	家庭科	英語	社会
8	英語	家庭科	英語	音楽	理科	理科
9	国語	英語	国語	英語	国語	英語

#### 4. おわりに

今回の調査結果より、「よくできる」の回答が5割を超えた技能項目は僅か6項目に限られ、児童の日常的な技能に対する習熟度の低さが明らかになった。「まあまあできる」の回答の多さに見られるように、自己の技能に対して、不安を感じている一面も多くある。特に、刃物を用いての作業が苦手だということや、男女とも身の回りの整理整頓や掃除が極

めて苦手なこと、また、男子は工作に関する技能、女子は調理・裁縫に関する技能の習得が高い傾向にあることなどが明らかになった。さらに、現状では、生活技能の習得の中心は学校であり、教師や教科内容への依存度が極めて高いことも明らかになった。

小学校教科についての意識調査結果からは、子どもたちは、実技や実習、実験を含む教科に対して、極めて高い関心を有していることが分かる。このことは、技能的な実践を伴う活動場면을積極的に取入れた授業展開が、技能の習得に加え、その教科の学習効果を高めるうえで、極めて効果的であることを示唆している。

しかし、学校だけでは習得不十分な生活技能も多々ある。調理や工作および栽培分野の多くの技能はその例である。今回の調査からは、児童の約7割が学校以外で栽培を体験しており、その中では、多くの人との関わりを有していることも分かった。

子どもたちの健全な発達を願う立場から、今後、学校・家庭そして地域が連携し、児童に身に付けて欲しい生活に必要な基本的な技能の体験機会を積極的に提供していくことが重要だと思われる。

（本調査結果の詳細（地域差、技能間の相関等）については、別途、報告予定。）

## 謝辞

調査に快くご協力いただいた各小学校（15校）の校長先生および調査をご担当いただいた先生方、ならびに、6学年の児童の皆様にお礼を申し上げます。

ここに、校名を列記（順不同）し、謝意を表します。

雲仙市立小浜小学校	雲仙市立北串小学校	雲仙市立南串第一小学校
雲仙市立大塚小学校	雲仙市立神代小学校	南島原市立有馬小学校
南島原市立西有家小学校	長与町立長与小学校	長与町立長与南小学校
長崎市立茂木小学校	長崎市立伊良林小学校	長崎市立山里小学校
長崎市立西浦上小学校	長崎市立畝刈小学校	北九州市立霧丘小学校

## 参考資料

- 1) 文部科学省ホームページ